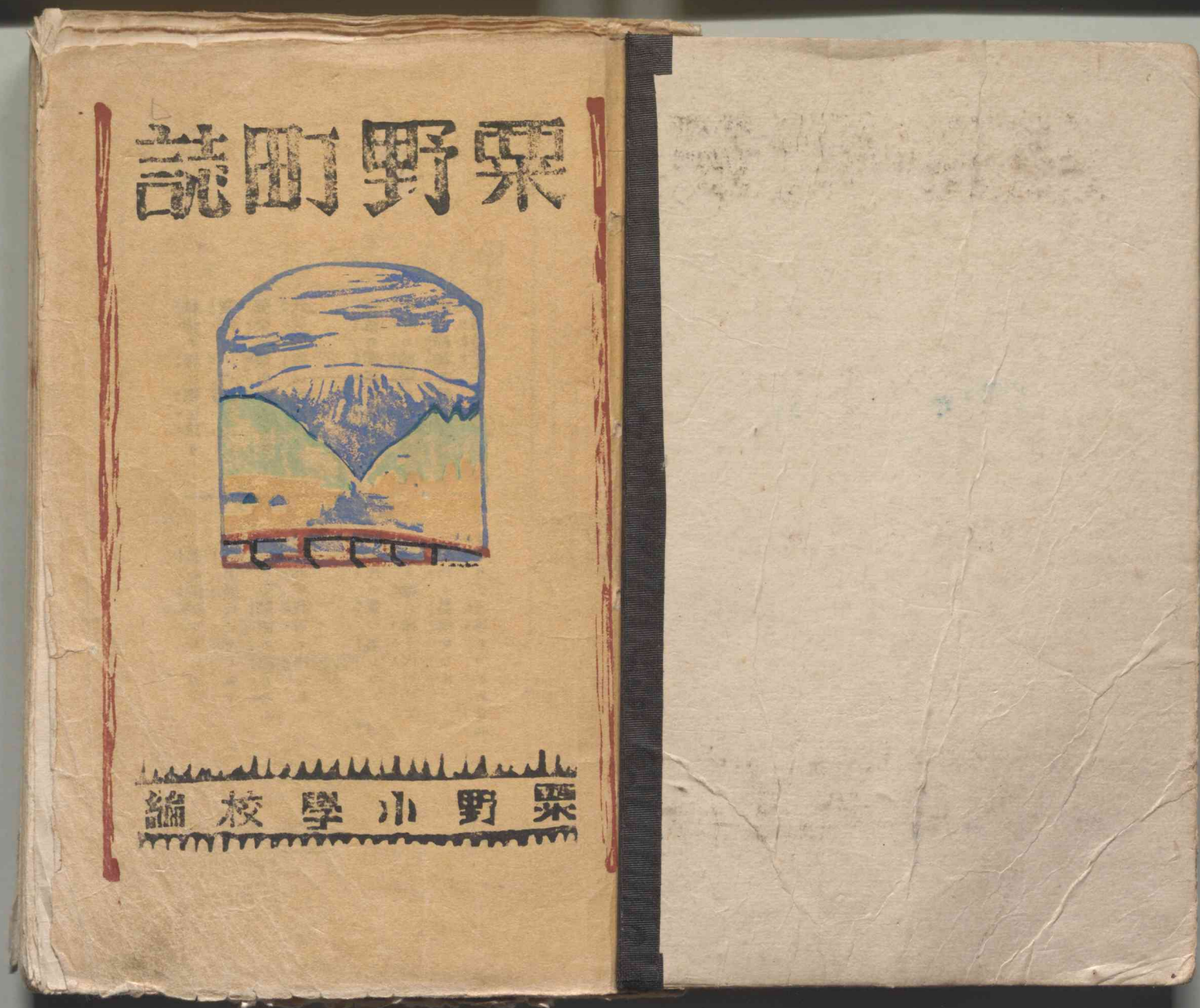


536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1

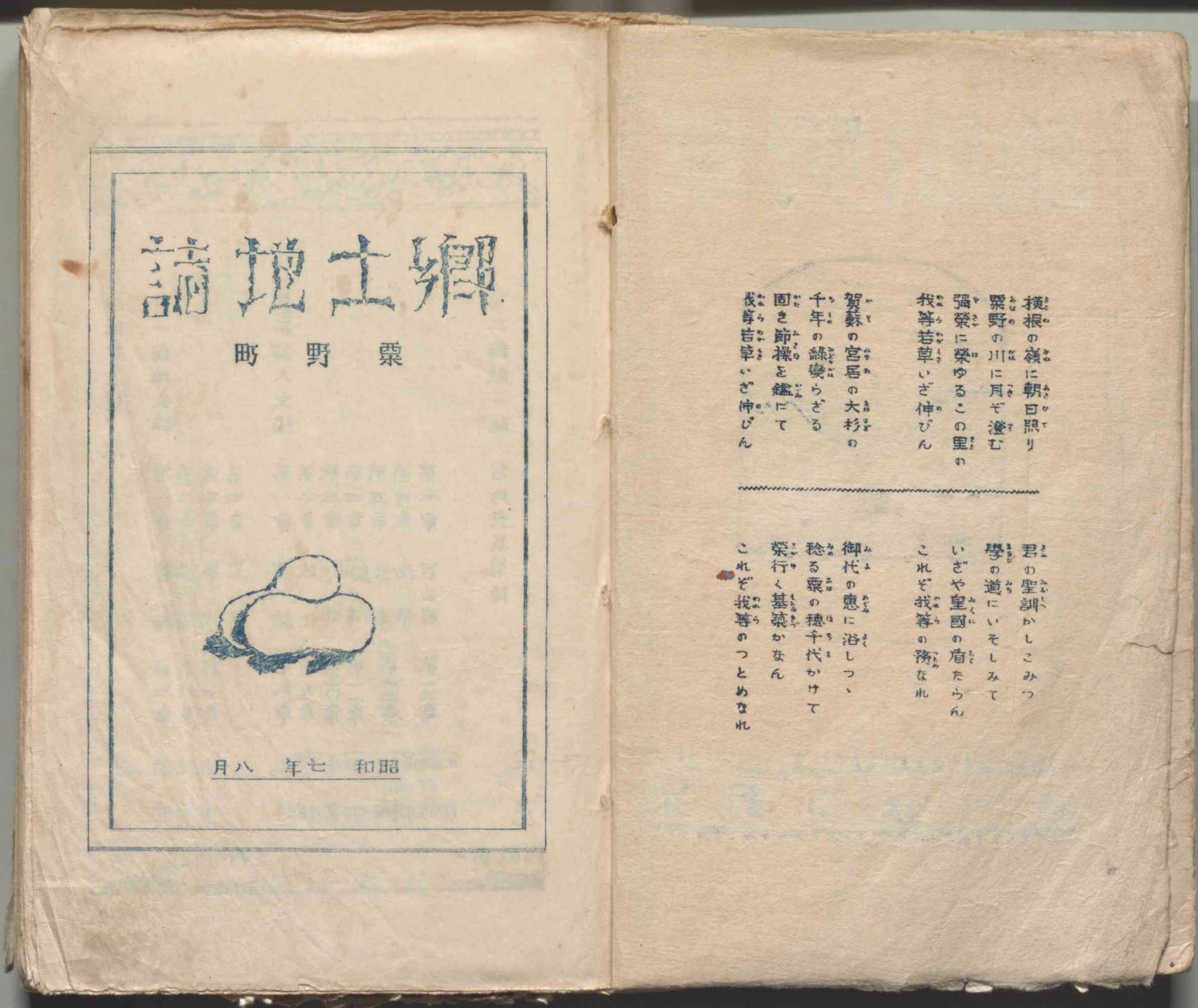




536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1





郷土地請

粟野町



昭和七年八月

横根の嶺に朝日照り  
粟野の川に月ぞ澄む  
彌榮に榮ゆるこの里の  
我等若草いざ仲びん

君の聖訓かしこみつ  
學の道にいそしみて  
いざや皇國の盾たらん  
これぞ我等の務なり

536 粟野地区 粟野町収集文書

ア1

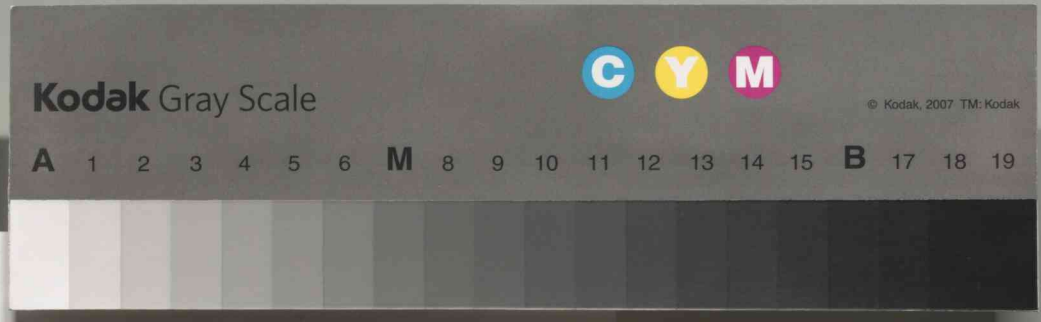




536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1





第二編 人文編

第一章 總論

第二章 社會

第三章 宗教

第四章 經濟

第五章 交通

第六章 行政

第七章 官署

第八章 教育

第九章 衛生

第十章 防務

第三編 結論

當時發展策論

(以上)





536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1

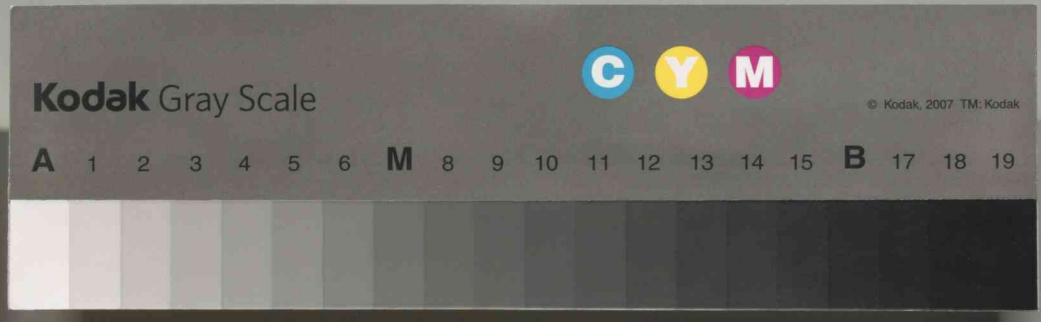




536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1



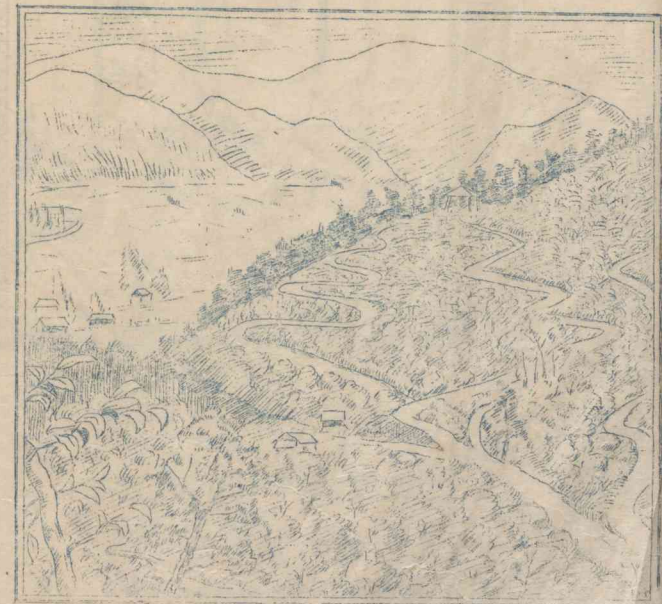


第一編 地文編

(1) 第一章 総論

(2) 七九四米三峯山(四八五二米)を經て笠場に至る山系の分水嶺を以てし、即ち西大蘆村加蘇村南厚村とは横根山(三三三八米)より大明神山(石裂山)即ち前述の如く本町は尾山系中の街村たれば多く山系を以て境界となす、境界たるに故に過ぎざるべし、望み難く昔のまの街村として山間部落の中、

名所 城山公園 一部







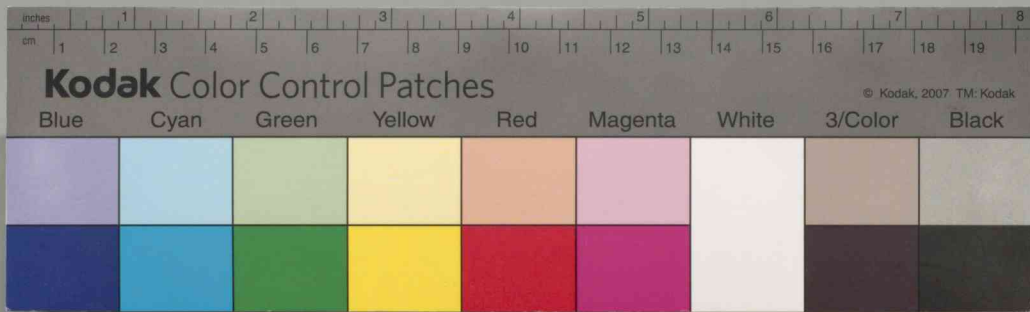
走花取山を過ぎ南方岩稜に突出す本町は前速二山系に包まれたる一盆地  
 如き地形をなし粟野川路其の中央を流るは河中に花崗岩多数存在す  
 屈曲甚だしく谷深し尚水澤より上流には

△三峯山▽  
 南麴村との境界にあり海抜四八五  
 二米にして山麓には植林行はれ杉  
 繁茂すれど頂上近くは雑木なり  
 中の峯附近は風化作用によりて岩  
 石多数露出せり  
 頂上眼界開け眺望絶佳なり  
 特長ある山をれば宇都宮方面より  
 識別することを得

(1)第二章 地勢  
 粟野町は地質上太古代の海底泥土粘板でありしも海水引退して陸地となす  
 裂罅に現存する花崗岩は、この地層に類繁なりて足尾山系に生じたもの  
 りたりこの時地表に盤状の岩塊が花崗岩で覆われ、風化雨木の作用によりて  
 裂罅に現存する花崗岩は、この地層に類繁なりて足尾山系に生じたもの  
 花崗岩は一部を露出せり山中心に花崗岩で覆われ、風化雨木の作用によりて  
 代流の岩層は、この地層に類繁なりて足尾山系に生じたもの  
 中粟野川は、この地層に類繁なりて足尾山系に生じたもの  
 生層の山系は、この地層に類繁なりて足尾山系に生じたもの  
 現層の山系は、この地層に類繁なりて足尾山系に生じたもの  
 大明神山石裂山三峯山と境界を走り笠場に至り他方は尾村との境を

(3)面積……五〇五平方軒  
 洲村とは横根山より花渡山(六七一八米)岩稜に至る山系の分水嶺を以てし  
 の南に値し大倉山矢倉山の山系の一部を以て境とす  
 尾村清洲村と尾川清

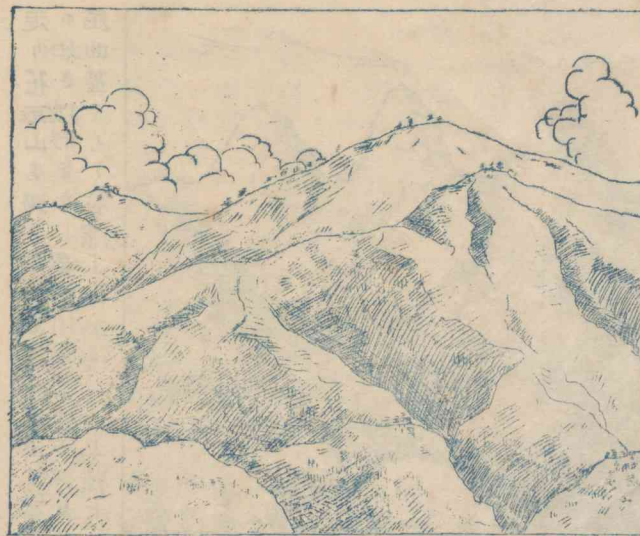




出口附近より見たる  
横根

横根山

本町西北部なる山にして頂上は高原状をなし全山花崗岩より成る粕尾村西大蘆村方面に長き傾斜をなす本町に面する方には多数落葉松植林行はれたれど頂上粕尾西大芦方面は草原なり  
本山は本町第一の高山にして海拔一三七八米あり山上幾多小丘陵起伏しその間度々に防火線を設く粟野粕尾両河の分水嶺をなせり遠方よりの眺望絶佳也



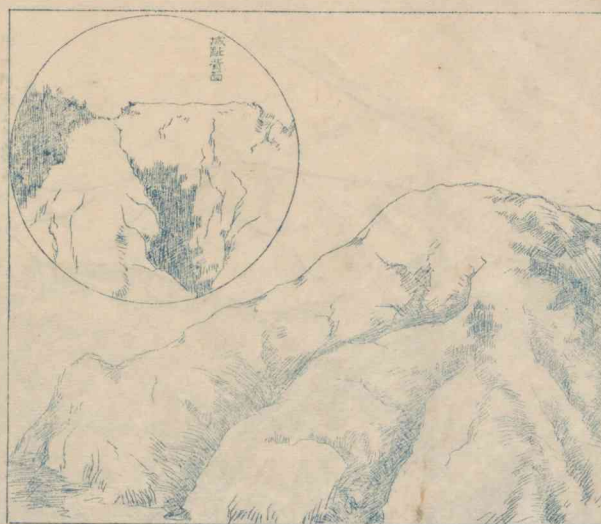
△花取山▽

本町の西南粕尾村との境にあり海拔六七二米にして岩石は輝綠凝灰岩粘板岩等より成る山麓附近は盛に植林行はれ杉檜等繁茂せり頂上に至るに従ひ雑木多し  
粕尾村に面せる方は風化作用を受けり岩石の一部露出せり 山系は横根山方面に連なる



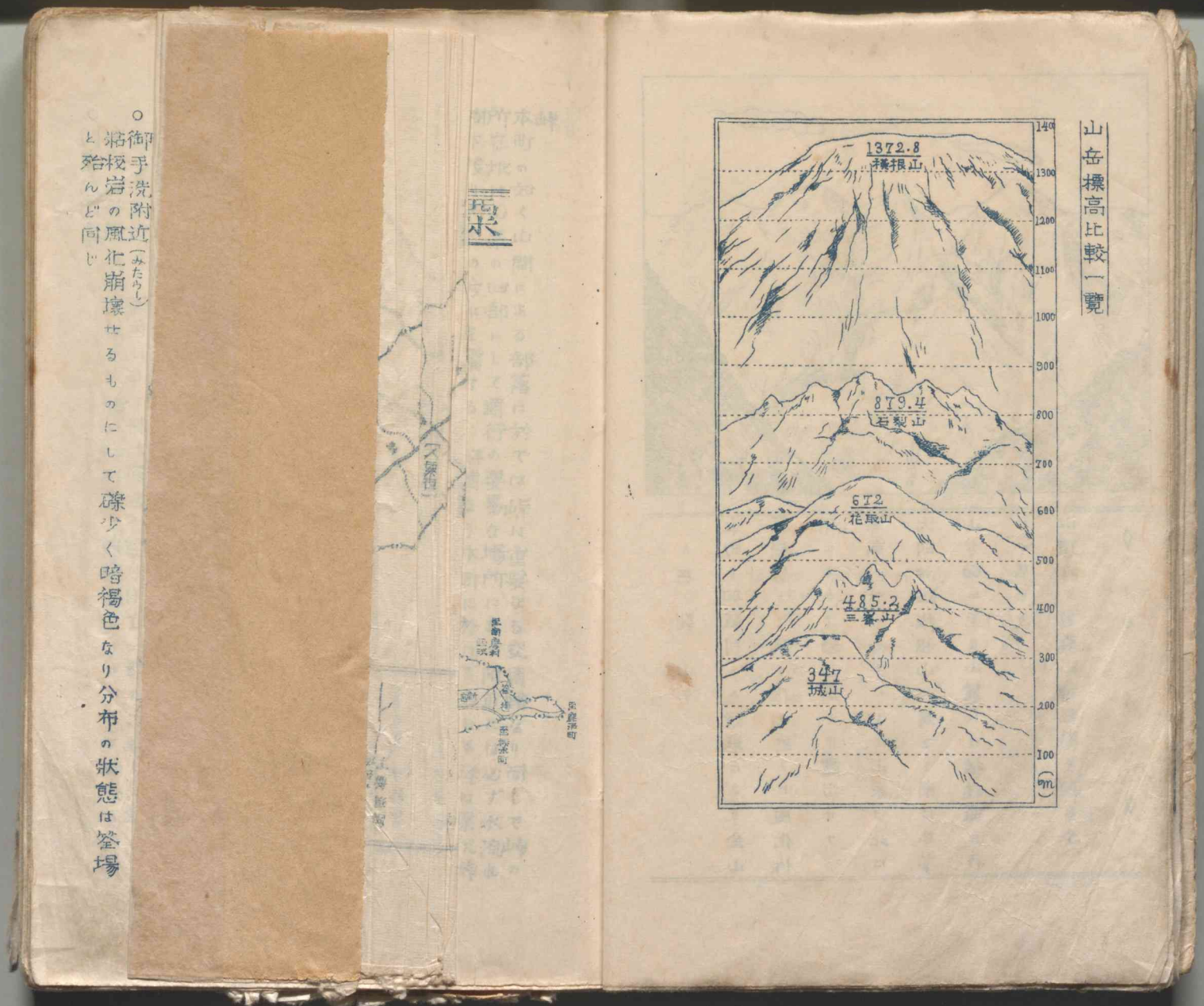
△ 石裂山▽

本町と加蘇村との境界にあり全山  
花崗岩より成り頂上近くは風化作  
用によりて岩石處々に露出せり。  
標高八七九・四米にして山系は北に  
大明神山横根山に連なり南は三峯  
山方面に至る山麓には植林盛に行  
はれ居れり。  
山頂近く賀蘇山神社奥。院あり。



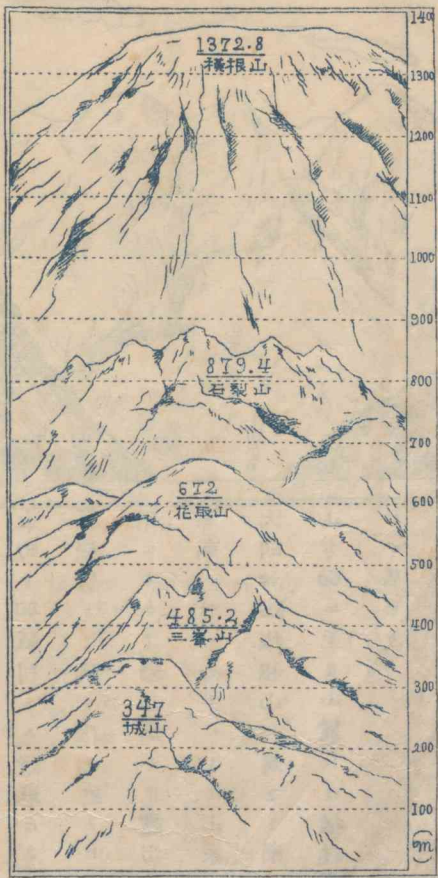
城山

口栗野の略中央に位し往古栗野  
城の存せし所なり海拔三四七米  
にして粘板岩より成る麓に梅林  
多く梅花の候に佳く殊に春より  
初夏にかけては全山のつゞじ緋  
に燃えて美観言語に絶し現在公  
園として町有なり遠く其の名を  
知られ行楽の人をゆるる事なし  
近く辨天山あり中町近く安せし  
頂之縁樹繁し景良し



○ 御手洗附近 (みたらし)  
 と 粘岩の風化崩壊せるものにして礫少く暗褐色なり分布の状態は釜場  
 と殆んど同じ

源泉



山岳標高比較一覽





536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1





536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1

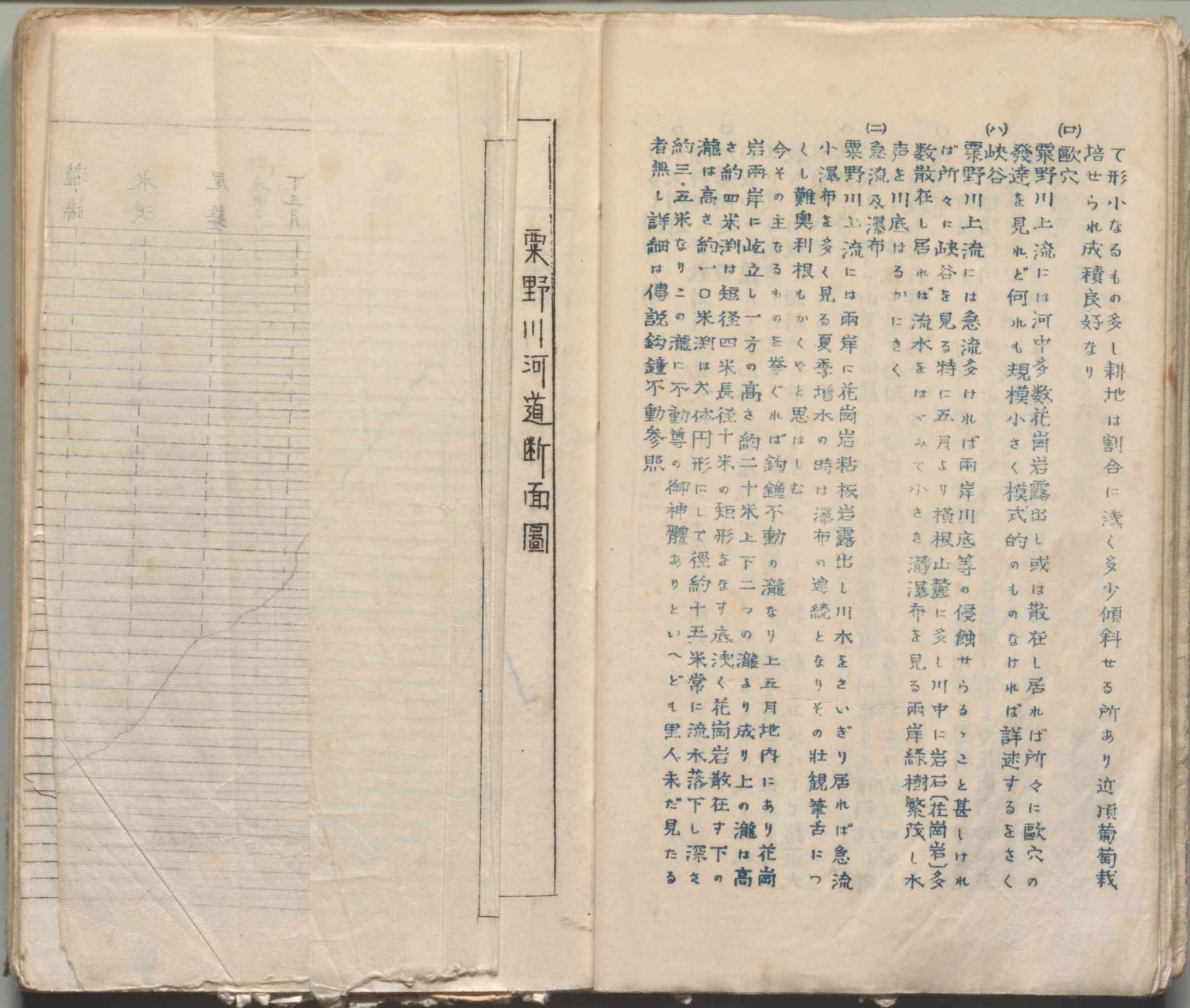




は多く園味を帯びたり  
 ○ 傾斜地に多数岩屑を見受く形大小一定せず角鏡きもの多し  
 ○ 尾鑿山の一帯  
 及び其の山麓にして山地の崩壊流出によりて成れるものにして粘板岩  
 数あり其の鋭し傾斜地に散布し黒褐色にして耕土約○五米にして蔬菜大  
 麻桑等栽培せらる  
 ○ 五月一帯  
 石裂山一帯の山系の山麓は皆鋭く黒褐色のもの多く耕土は約○四米な  
 り桑蔬菜大麻等栽培せらる  
 ○ 檜屋原  
 もと河道なりしが河道の变化によりて成れる高地なり岩屑の分布を見  
 るに堆積作用によりて出来たる土地は小高く花崗岩粘板岩  
 等交わり未だ荒地のまゝに一般に耕作物の生育不良なり川に面せる方は未だ  
 開墾されず荒蕪のまゝに放棄せる状態あり  
 ○ 桑沢附近  
 こゝの地方の岩屑は山塊の崩壊と桑沢川の汎濫によりて堆積せるものと  
 より成る爲に角の鋭きものと園味を帯びたるものもあり色暗褐色にし

岡桑沢附近  
 附近に多数あり褐色にして耕土割合に深く附近一帯は大麻の産地とし  
 て知られ名所としてあり  
 ○ 粘板岩より成れる岩屑多く大いさ直径一糖及至二糖位にして園味を帯  
 びたるものと針鏡きものと混ルり褐色にして耕土約一米なり大麻煙草  
 等栽培せらる  
 ○ 鏡板岩の崩壊せるものと上流より運搬堆積せるものより成るか故に角  
 鋭きものとまみを帯びたるものとあり附近に栽培せらる、大麻は追地麻として市  
 場に名ありは板名より浅し附近に栽培せらる、大麻は追地麻として市  
 場にはありは居るものは主として粘板岩泥板岩及び其の変質した  
 地表面にあらはれて居るものは追地の如くなれど形一般に小なり  
 ○ 出口附近  
 附近の岩屑の大部は風化作用によりて破壊せられた粘板岩及び其の変  
 質したるものなり角の鋭きものと多く散在し形管沼大栗附近に比し稍大  
 なり又一部上流より流出せる花崗岩の破壊したるものを見受くこれ等





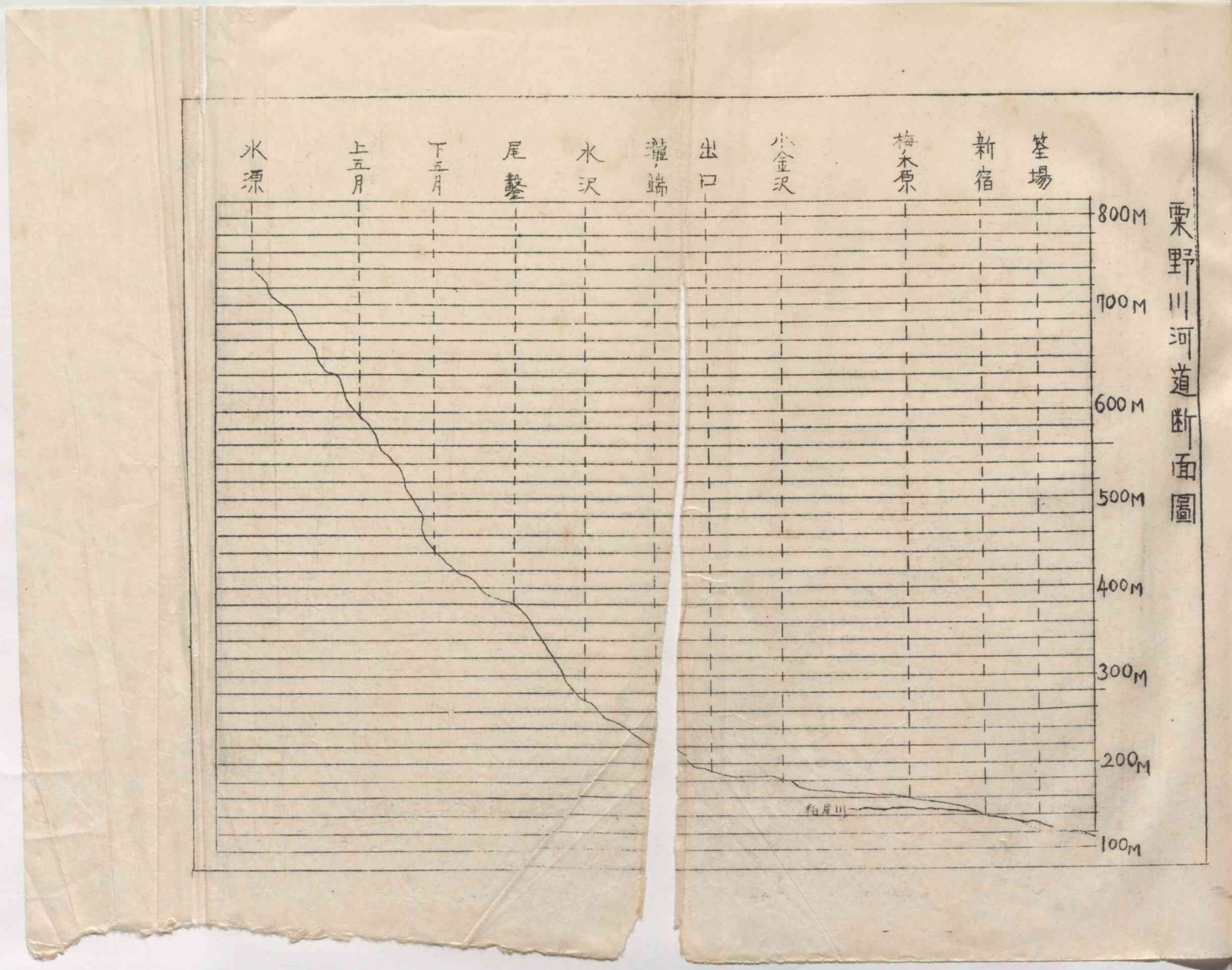
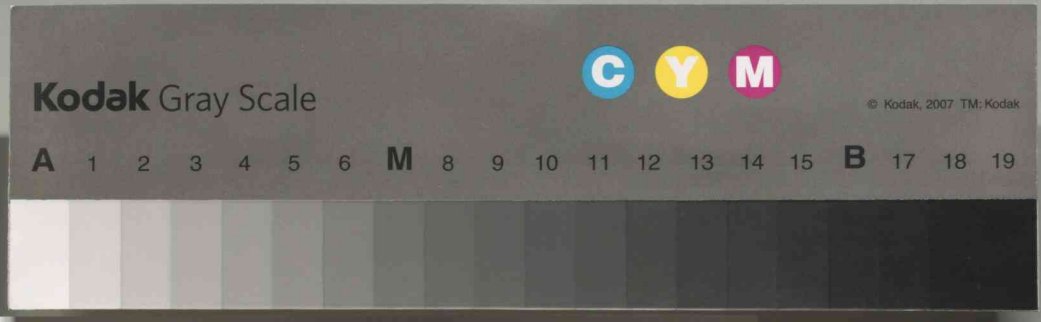
栗野川河道断面圖

(一) 栗野川は上流に急流多し五月より積根山麓に多し川中に岩石(花崗岩)多数散在し居れば詳述するをさく  
(二) 急流及瀑布は流るかにきく  
栗野川上流には兩岸に花崗岩粘板岩露出し川水をさいぎり居れば急流小瀑布も多く見ゆる夏季増水の時は瀑布の連続となりその壯觀筆舌につくし難奥利根もかくやと思はしむ  
今その主なるものを挙ぐれば鈎鐘不動の瀧なり上五月地内にあり花崗岩兩岸に屹立し一方の高さ約二十米上下二つの瀧より成り上の瀧は高さ約四米約一〇米瀧は犬体円形の矩形をなす底浅く花崗岩散在す下の瀧は高さ約一〇米瀧に不動尊の御神體ありといへども里人未だ見たる者無し  
詳細は傳説鈎鐘不動参照

下三  
風  
水  
節

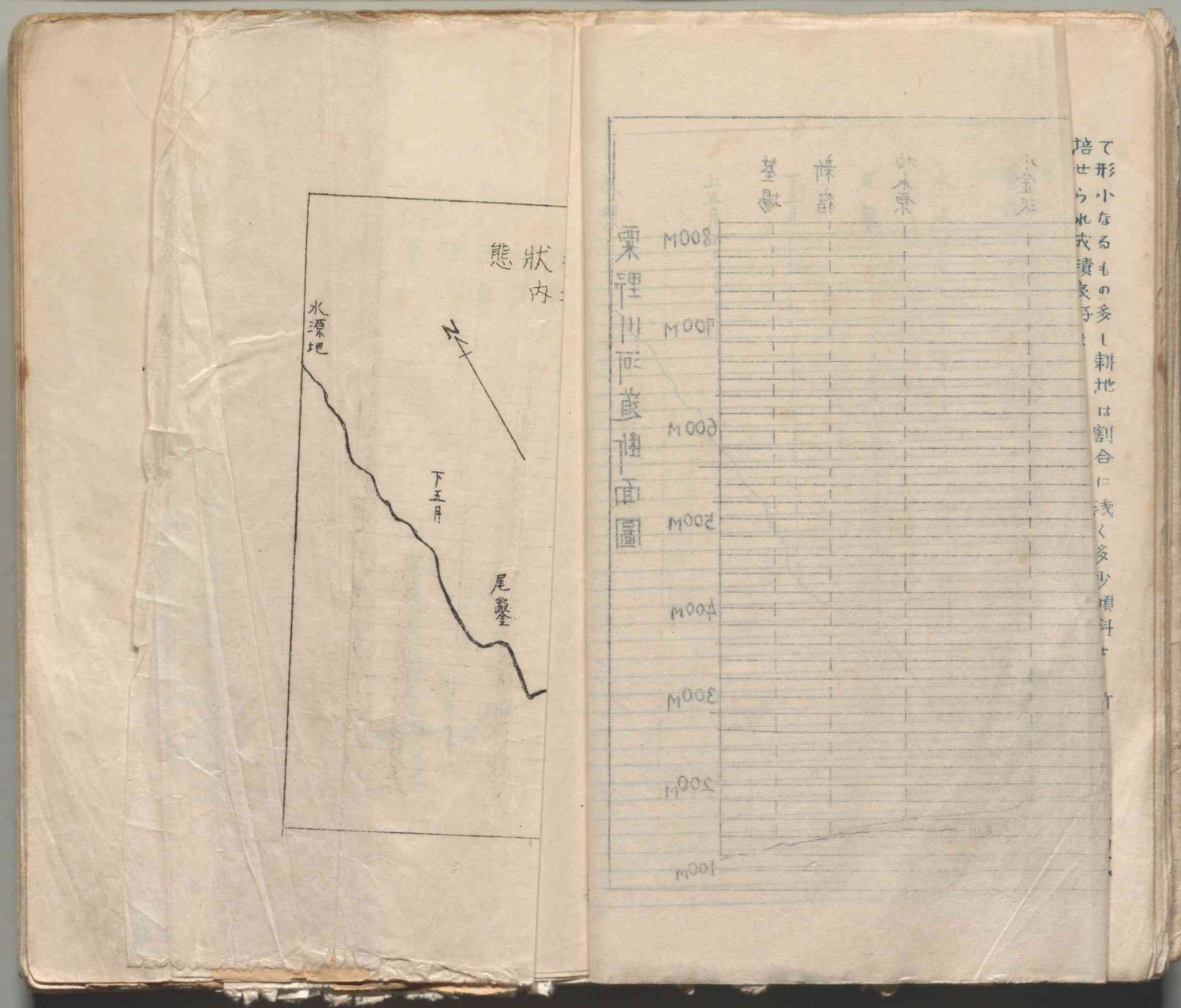






小澤布を多く見る夏季増水の時は瀑布の連続となりその壯観筆舌につ  
 今その主なるものは五月にあり花崗  
 岩の崖に立ち一方の高さは約二十  
 米に達するなり五月に成り上り花崗  
 瀧は約四米の長さ約十米の幅あり  
 約五米の幅あり五月に成り上り花崗  
 者無し詳細は伝説鈎鐘不動の御神  
 ありといへども里人未だ見たる

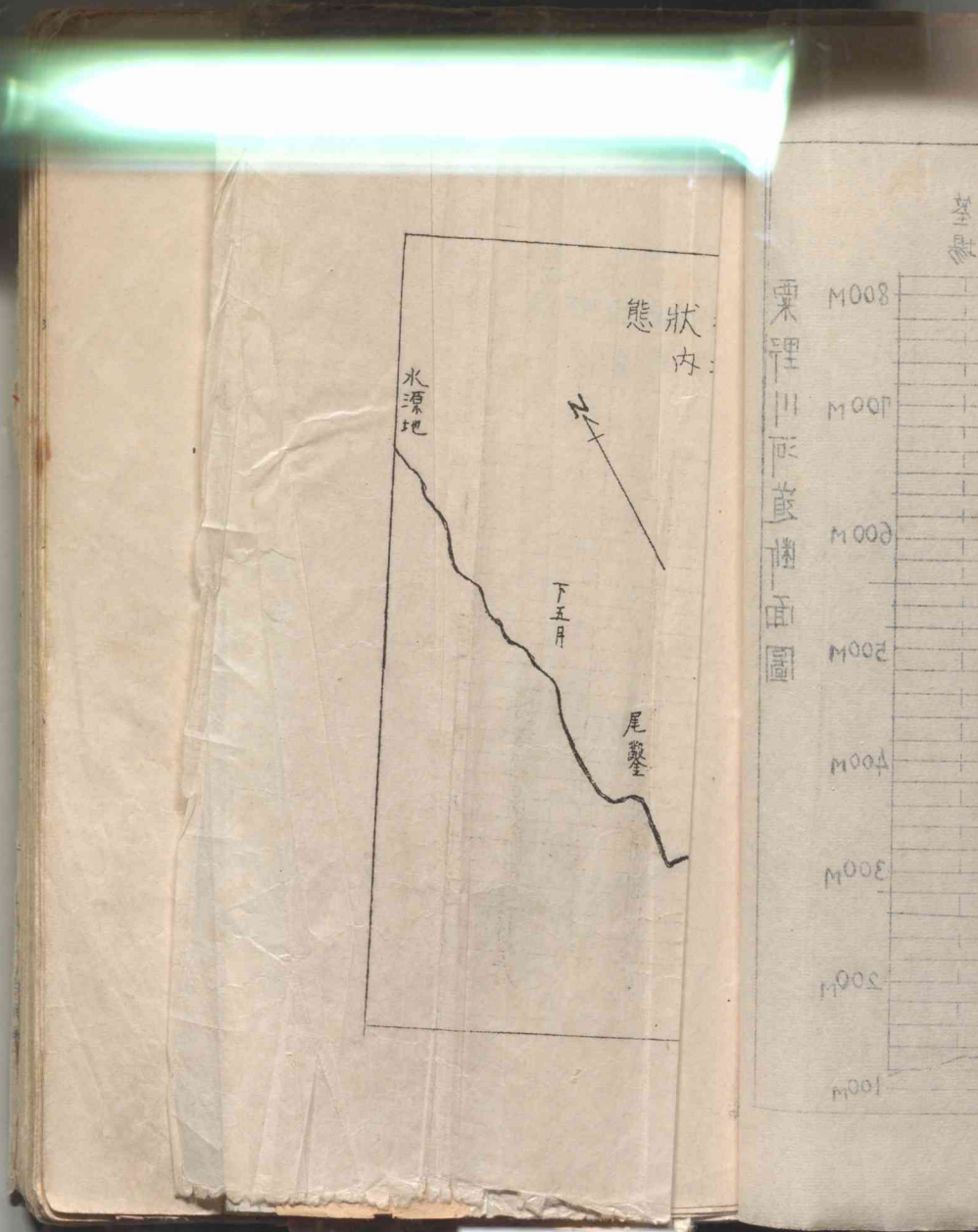




536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1





536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1

9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1

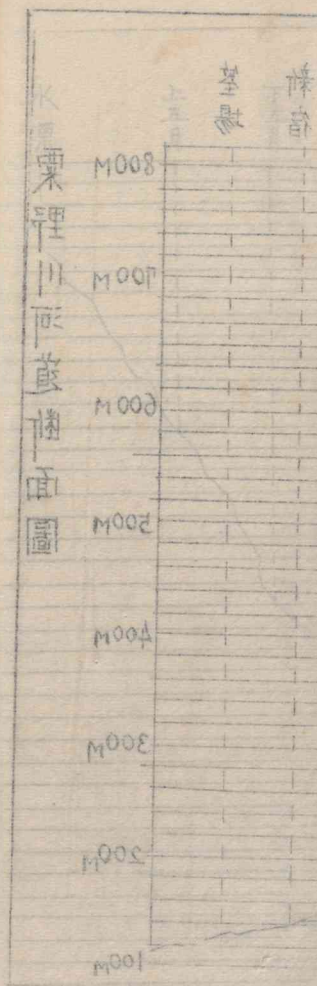
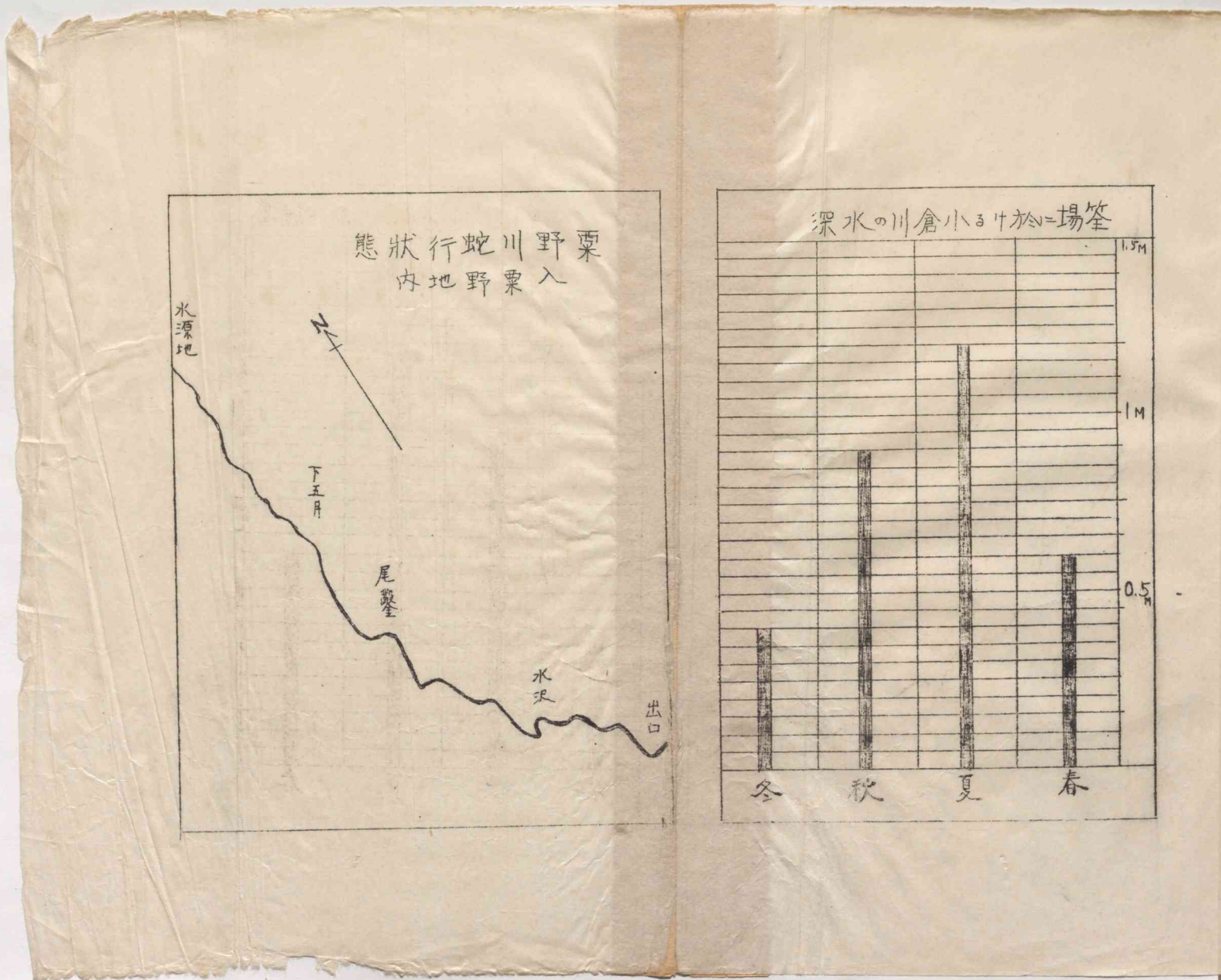


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

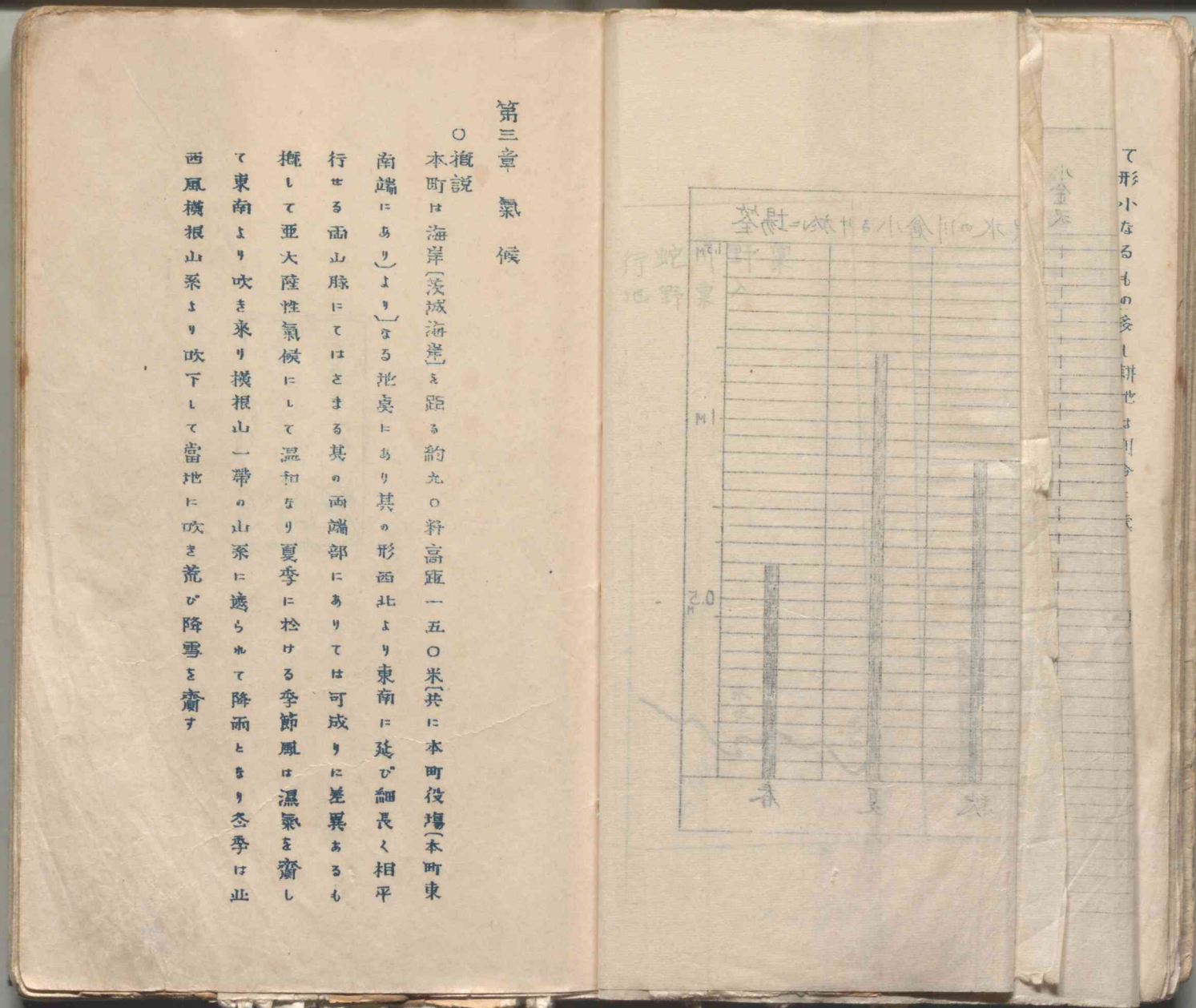
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1



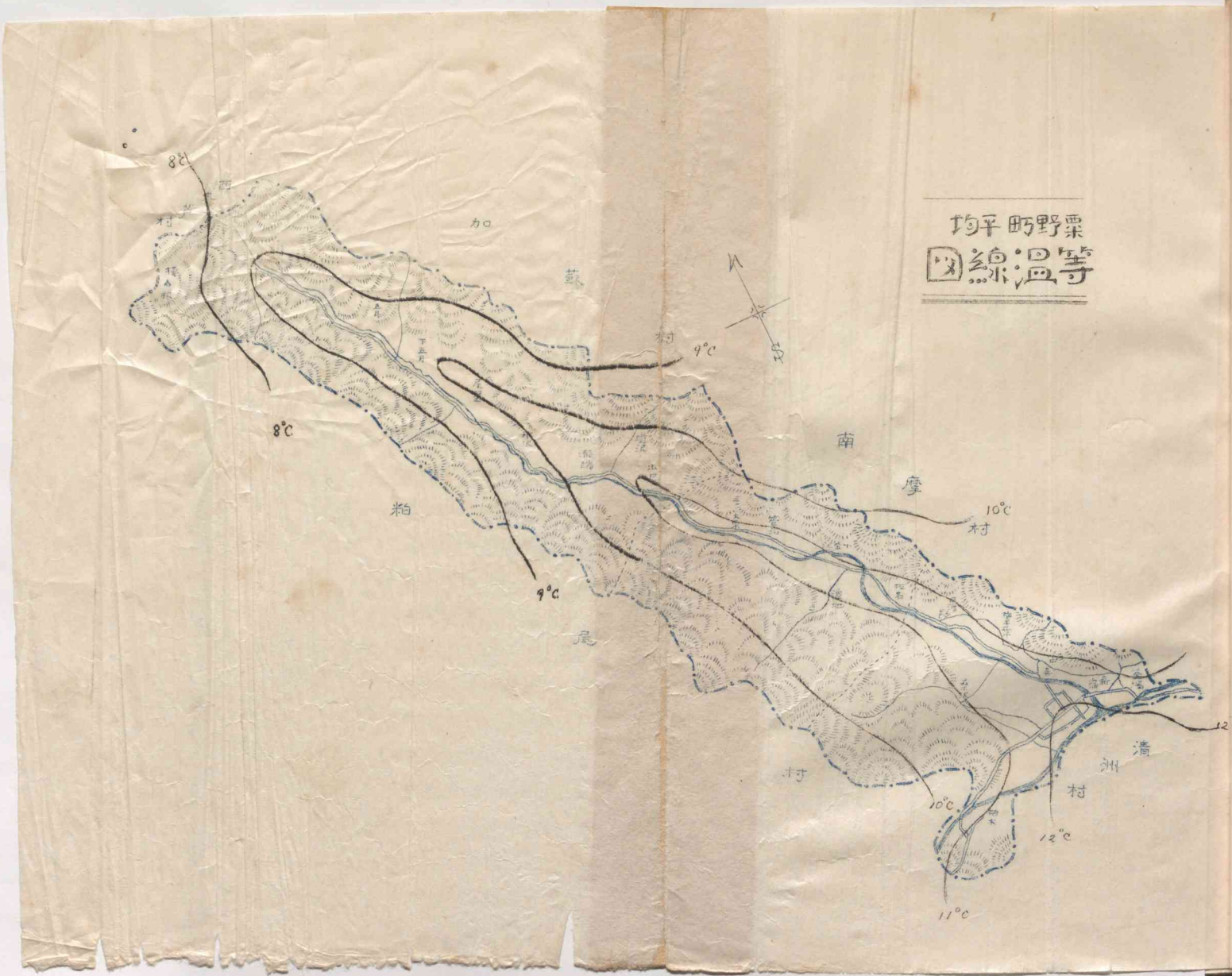




536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1

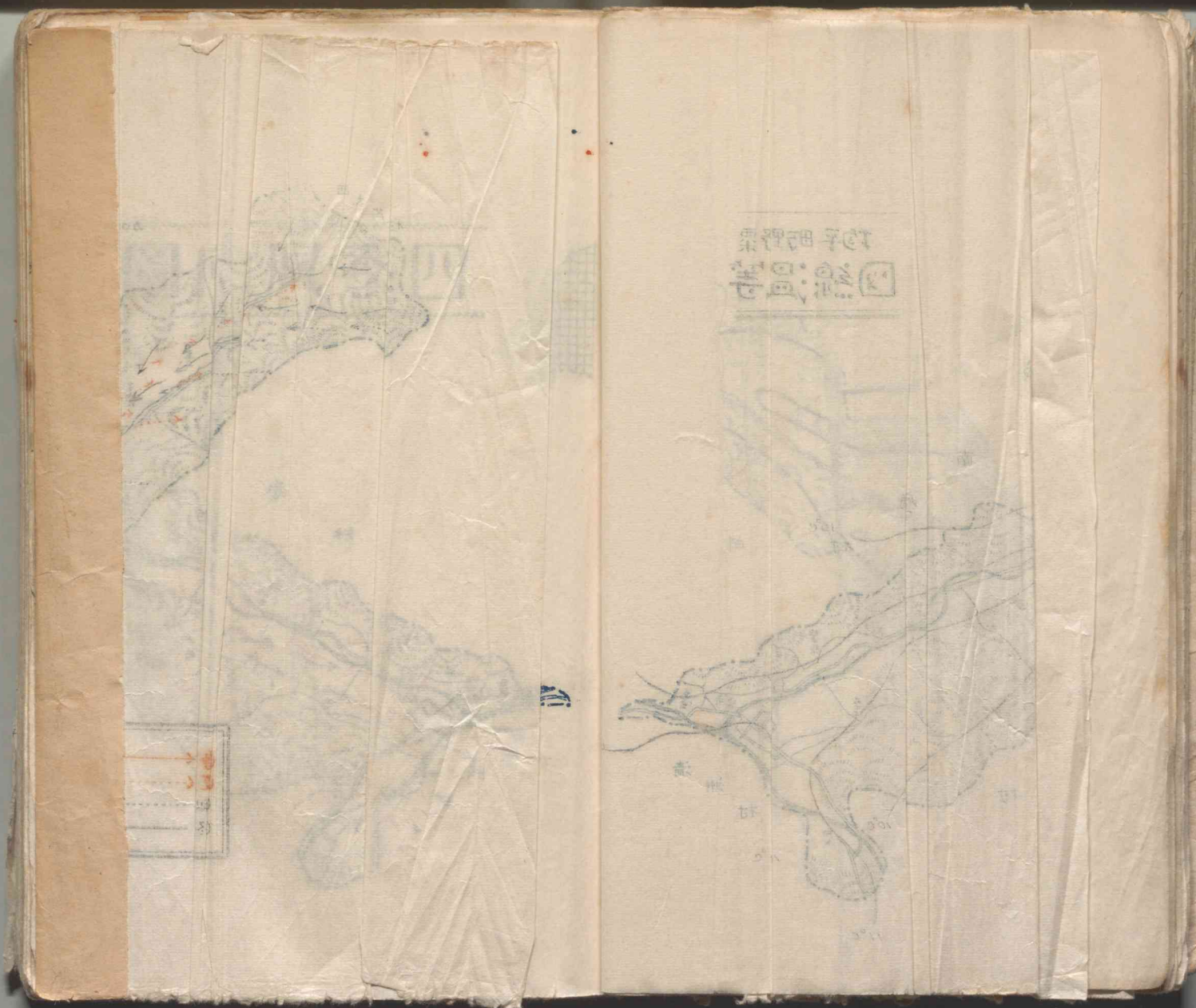




536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1





536 栗野地区 栗野町集文書

ア1







536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1





536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1





536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1

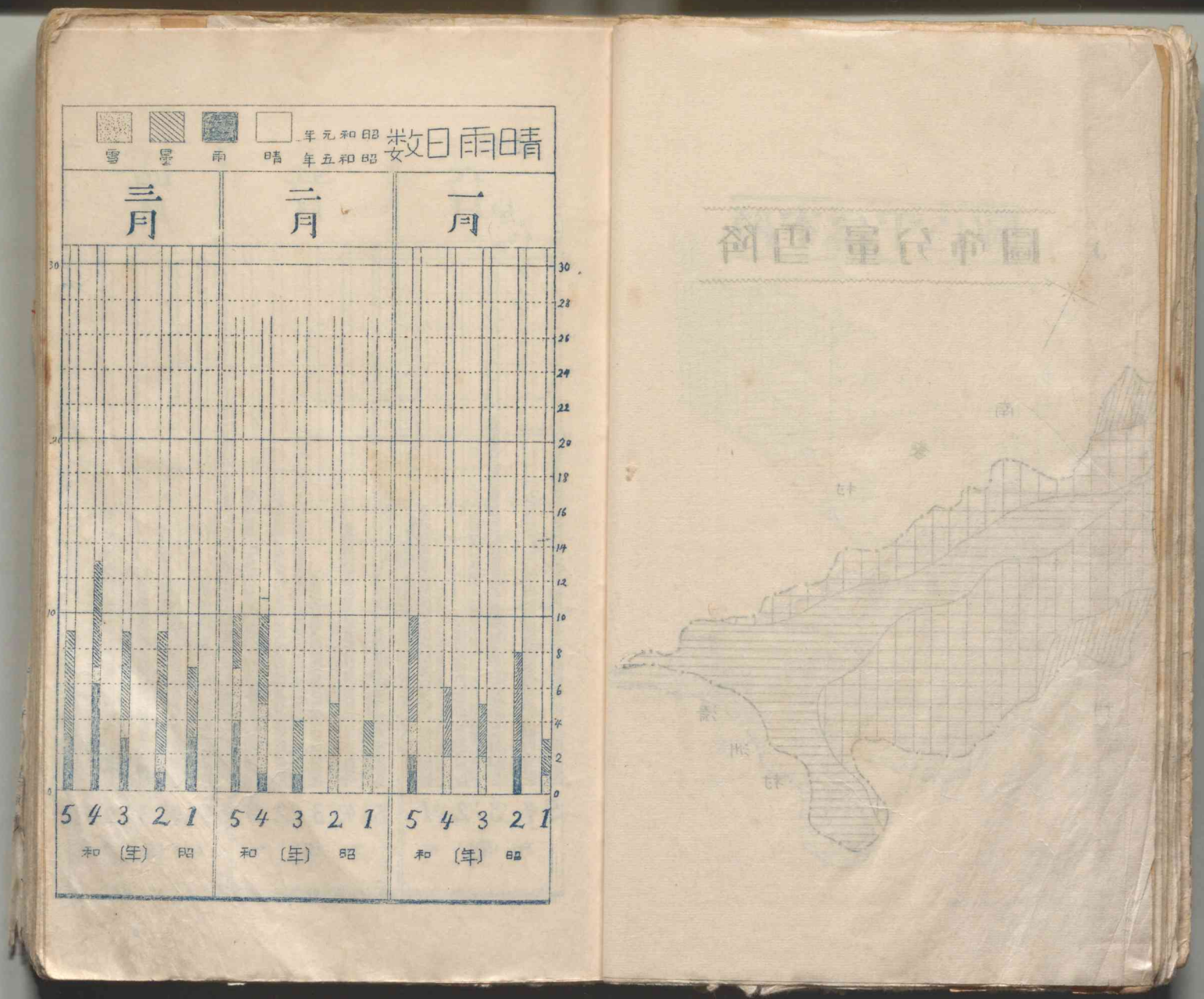




536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1

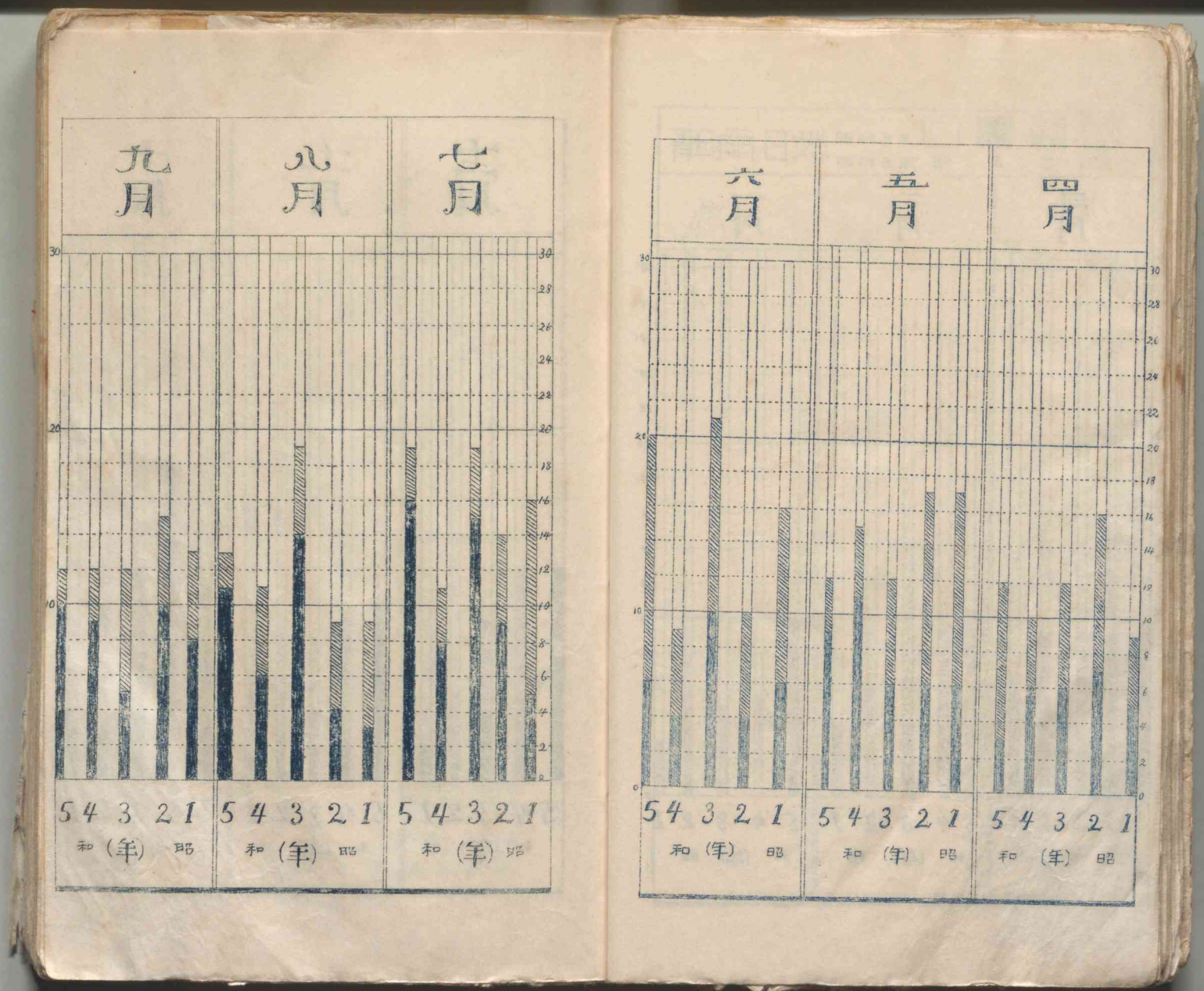




536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1

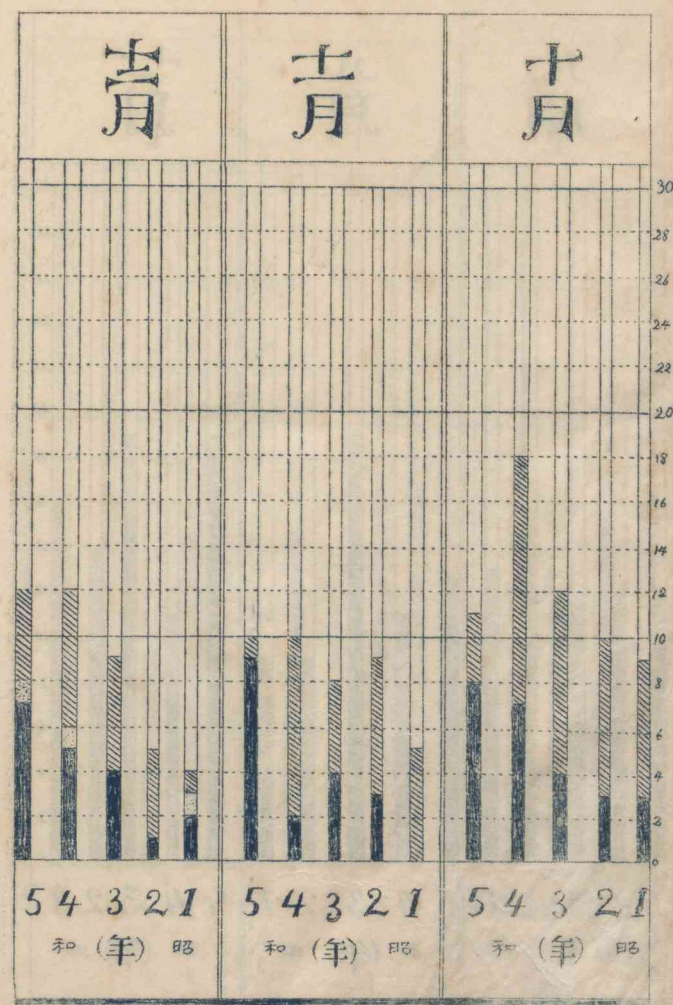
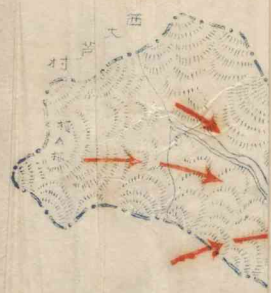
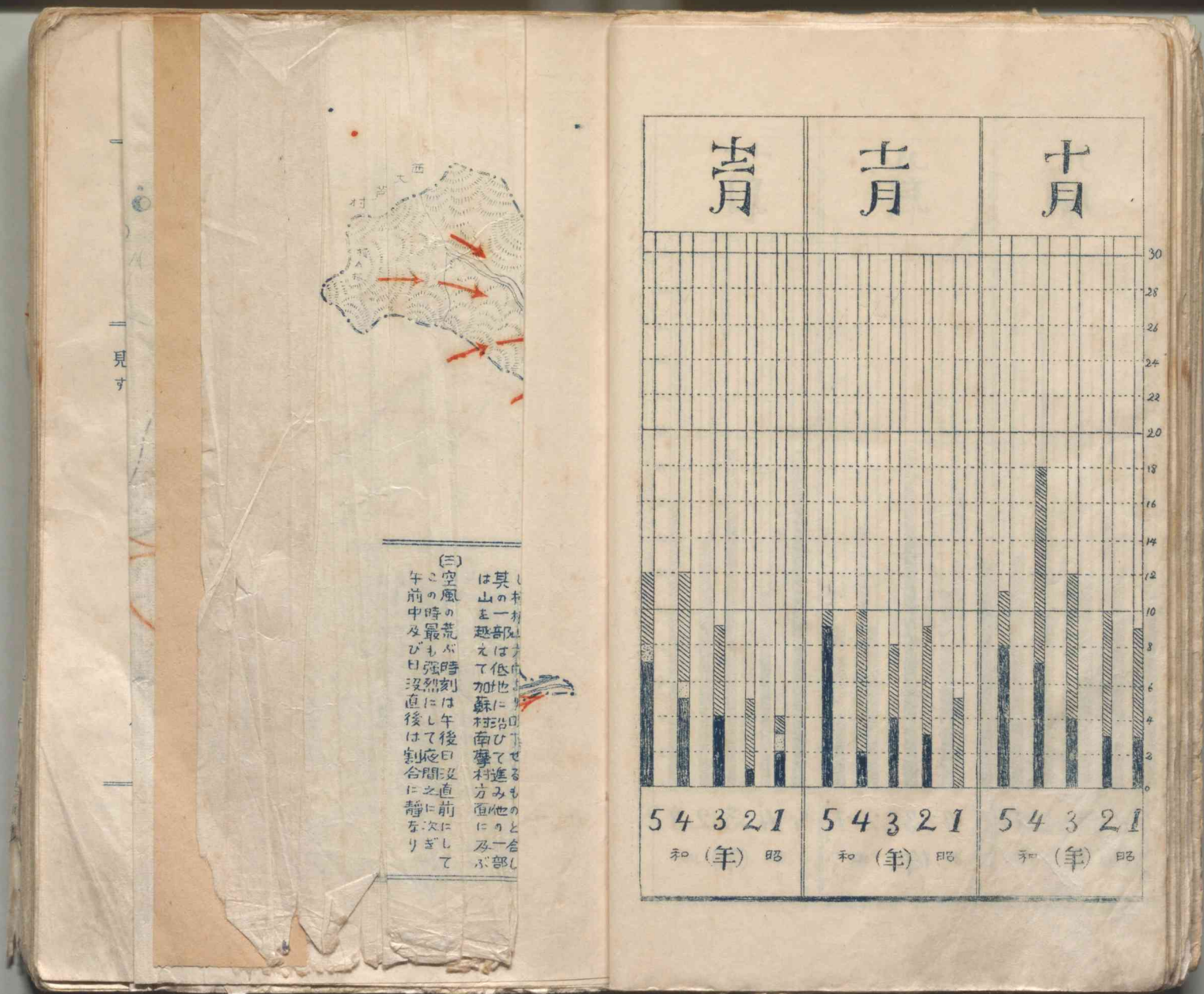




536 栗野地区 栗野町収集文書

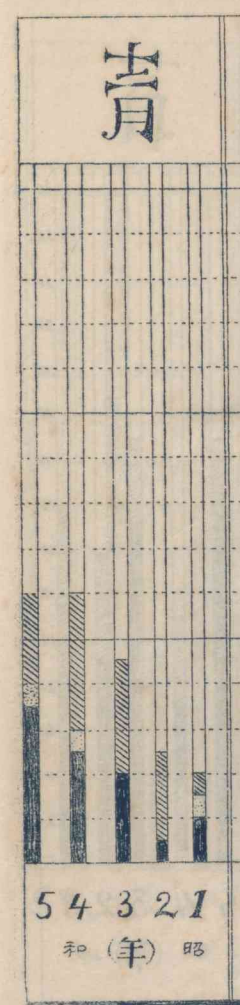
ア1





536 栗野地区 栗野町収集文書









○ 梅 雨

昭和五年度	昭和四年度	昭和三年度	昭和二年度	昭和元年度
見ず	梅雨期	梅雨期中	天候快晴	梅雨期中
氣多し	至り	其の期	降雨七回	然れども
雨の兆候	大雨	期中を	湿度概	梅雨期中
は割合	着しく	通じ	湿度に	降雨僅
に多	上昇	極めて	着しき	かに五
く見	小	永く	変化を	回に過
え	雨	温度	見ず	に過ぎ
氣温	續	低下		たり
に	きた	せり		未
変	り			期
化	末			
を	期			

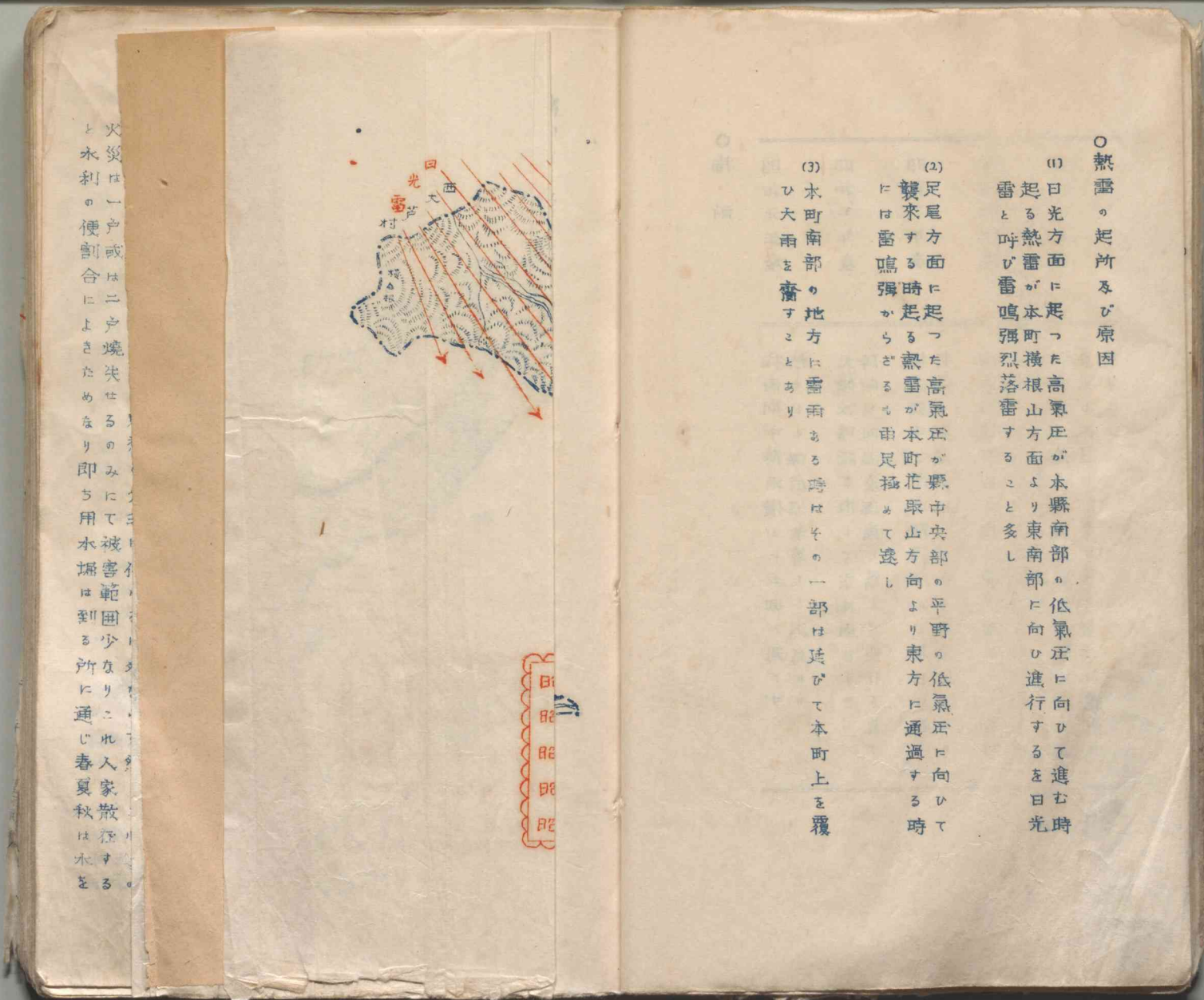
  

空風六月

536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1





火災は一戸或は二戸焼失せるのみにて被害範囲少なり此人家散在する  
と水利の便割合によきためなり即ち用水堀は到る所に通じ春夏秋は水を



日光  
大町  
大町  
大町  
大町

○熱雷の起所及び原因

(1) 日光方面に起つた高氣圧が本縣南部。依氣圧に向ひて進む時  
起る熱雷が本町横根山方面より東南部に向ひ進行するを日光  
雷と呼び雷鳴強烈落雷すること多し

(2) 足尾方面に起つた高氣圧が縣中央部の平野。依氣圧に向ひて  
襲來する時起る熱雷が本町花取山方向より東方に通過する時  
には雷鳴強からざるも雨足極めて速し

(3) 本町南部。地方に雷雨ある時はその一部は延びて本町上を覆  
ひ大雨を齎すことあり





(3) 本町南部の地方に雷雨ある時はその一部は延びて本町上を覆ひ大雨を齎すことあり

536 栗野地区 栗野町収集文書

ア1



